ゆかれいむの
なんでもない日常
成人向

AmBiVaLenZ
HarthNir
since 1999

ゆかれいむの
なんでもない日常

――或る日の博麗神社にて。
異変解決を生業とする巫女・博麗霊夢は、朝餉を食べ終えて、ちゃぶ台の前で出涸らしのお茶を飲んでいた。
すると彼女の目の前に、ぬぼあと空間の裂け目が広がったと思うと、その中から妙齢の女性が姿を現した。
――かと思うと、
「はあい霊夢～♥　今日も遊びに来たわよ♥」
そんな怪異に遭遇しても霊夢は動じず、薄いお茶を飲み干した後、呆れた目線を相手に向ける。
「……なんだ、紫じゃないの。今日は何の用かしら」
神出鬼没の大妖怪、八雲紫。
幻想郷の管理者、妖怪の賢者として名の知れた彼女であるが、また一方で霊夢のよき理解者、保護者としての一面も持っていた。
「つれないわねえ、せっかく私が遊びに来たっていうのに」
「あんたが遊びに来るとろくなことが起こらないのよ」
「――と言いつつ、ちょっと期待してるところもあるんじゃない？」
目線を逸らす霊夢の肩に、紫は上から覆い被さる。ふわりと、花のような香りが霊夢の鼻孔に侵入する。
「そ、そんなこと、ないわよ……」
そう強がる霊夢であったが、頬はみるみるうちに朱に染まり、心なしか目も潤んできた。
「あらあらか～わいい♥　私の匂いを嗅いだだけで、霊夢ちゃんったら表情がとろんとしてきちゃうのね～え」
「それもこれも、全部あんたのせいでしょ……」
「はあい、私のせいで構いませんわ♥」
紫は霊夢の保護者と言っても、それは母性的に見守るばかりではなく、まるで恋人であるかのような態度で接することも多い。その中には、多分に性的なものも含まれており――
いかにも妖怪らしい、胡散臭い厭らしい笑みを浮かべた紫は、霊夢の白くきめ細やかな頬を撫で回しながら囁く。
「霊夢ちゃんは私にえっちなことをされまくって、簡単に発情するドスケベ巫女になっちゃったんだもんね～♥」
「う、う、う、うるさいっ！」
声を荒げる霊夢であったが、紫はどこ吹く風とばかりに笑みを浮かべたままだ。
「そう邪険にしないで頂戴、悲しくなっちゃうわ？　ね？」
全く悲しくなさそうな顔でそう言った紫は、霊夢の顔を掴み、強引に振り向かせ、
「ん～っ♥　ちゅっちゅっ♥」
擬音を声に出しつつ、霊夢の無防備な唇を奪う。
「むぐっ！　むふっ、ぷはぁ……♥　んむっ――ちゅっ、――ちゅっ、ちゅっ……♥」

「最初」こそ表情でそれを拒絶した霊夢であったが、口接のもたらす脳が痺れるような快感に、次第に為すがままとなり、紫の唇を受け入れて眼を細める。

「ぷはっ♥　ほら～キスだけでもうエッチスイッチ入っちゃったじゃないの霊夢……♥　何だかんだ言いつつも、すぐに受け入れ体勢♥　ちょろ～い♥　博麗のチョロ巫女ね♥」

「そんなことぉっ……ないもんっ」

紫のからかいに反駁する声も弱々しくなっている。

「あら、そんなこと言っても、ほら」

紫の目線が霊夢の股間に向けられる。つられて霊夢もそこを見やれば、赤色のスカートをくっきりと持ち上げて、霊夢の男根が力強く屹立していた。

「ひやっ♥　こ、これは、そのっ……」

「キスだけでボッキしちゃったのね♥　巫女チンポ、キスされただけでアツアツもっこり♥　簡単に興奮してガチガチ硬くなっちゃう♥　霊夢のスケベ♥　何を期待してボッキしちゃったの？ん？」

「ひやぁぁぁっ♥　ゆ、紫っ♥　オチンポの先っ、指先でくりくりくりくり撫で回さないでぇぇぇっ♥　オッ、おおぉおぉっ♥きついっ、きついいいっ♥　少女チンポフルボッキっ♥スカートの上から指先で撫で回されて、あっ、あァァっ♥びくんってする♥　恥ずかしいチンポ結界を紫の指にからかわれてッ♥　きついよォォっ♥」

「ほっぺらじんわりとスカートに霊夢の少女エロマラ先汁が染み出して来ちゃったわねえ♥　期待汁♥　博麗霊夢のチンポ期待汁♥　気持ち良くなりたくってしょうがない、性欲がガチガチに固まったはしたない少女ボッキ♥　うふふふふ♥」

「ゆっ、ゆ、紫いっ……♥　恥ずかしいことっ、い、言わないでぇぇぇ……♥　くひうぅぅぅっ……♥」

霊夢は泣きそうな声で抗弁するが、
「それでも私の指先から逃げようとはしないのねえ……♥ 少女性欲おちんぽ指先でこねくりこねくりされて気持ちイイの、霊夢？　ひくん、ひくんって物欲しげに腰を震わせちゃって……可愛いわ♥」
「意地悪、いやぁぁぁ……♥　意地悪っ、しないでぇぇぇ……♥　ひぐっ、ひっ、うううっ♥　切ない、よおおっ♥　おちんぽおぉっ♥　切ない、のおおぉっ♥」
果たしてこれが、妖怪相手に情け容赦なし、博麗の鬼巫女とまで呼ばれた博麗霊夢の姿と言われて、誰が信じようか。
この私だけが霊夢のしどけない姿を見られる――紫はそのことに心からの喜びを覚えつつ、ふっと表情を緩める。
「あはっ、ちょっと意地悪が過ぎたかしら？　ごめんなさいね霊夢♥　許して♥」
「う、ううっ、もうっ……！　知らないっ！」
「霊夢ちゃんの先汁ぜくぜく童貞チンポ♥　いつものようにお口で気持ち良くしてあげるから、許して……♥」
頬を膨らませた霊夢の前に恭しく屈み込むと、紫は霊夢のドロワーズをズリ下ろす。すると、ぷりんっ♥　と音さえ聞こえそうな勢いで、霊夢の男根が跳ね、飛び出した。
「おっ、おおぉぉぉっ、おっ、ぁぁぁぁぁ♥　で、出ちゃった、ああぁ、チンポ♥　紫の目の前に生チンポ見せちゃったぁぁ♥　はあぁぁぁ♥　見せ竿♥　見せ竿してるっ♥　見せ竿ォっ♥　見せ竿したら興奮しまくって止まらなくなっちゃうっ、あ～っ♥」

自分の男根の目の前に、妖しくも美しい紫の顔がある――その光景に霊夢はまさまさ興奮して、鼻息を荒げる。
「どこでそんなヤラシイ言葉を覚えてくるのかしらこの子は……♥　うふふふふ♥　ええ、見てまさわ、若さ溢れるフレッシュ少女チンポ♥　血管がビキビキ張り巡らされた美味しそうな博麗マラ♥　ぷるっとした卵みたいなツヤテカキンタマも♥　ガン見♥　じっくりじっくり観察しちゃいまさわ♥」
「あ、あはっ、あぁぁぁぁ♥　見てるだけじゃないでしょうっ♥　しゃぶるのっ？　紫っ♥　おしゃぶりしてくれるのっ？　私の、おっ、オオオっ♥　チンポっ♥　朝ご飯食べた直後にフルボッキしちゃってる私の恥ずかしいチンポぉっ……♥　朝っぱらからチンポぱっくんぱっくん♥　してくれるのっ♥」

「そう言いながら、自分からチンポを私の唇に押しつけてきて……♥ 放っておいたらイラマチオさせられそうだわ♥ こわ～い♥ 霊夢ちゃんの兇悪ズル剥け少女チンポ怖～い♥ このままおしゃぶりせずに焦らしちゃおうかしら♥」
くすくす笑いながら紫がそう言えば、霊夢はこの世の終わりが来たかのような顔で眉根を寄せる。
「え、――えええっ……♥ そんなあっ、酷いいっ♥ 今更そんなの、残酷よおっ……チンポに残酷っ♥ ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、紫ぃっ♥ 何でも、何でも、何でもするからぁあぁっ♥ おしゃぶりぃぃ……♥ してぇえぇ♥ 霊夢のチンポをボッキさせた責任取ってよおっ……♥ 私をこんなドスケベなチンポアクメ狂い巫女に調教した責任っ、取りなさいよおおぉぉっ♥」

懇願とも脅迫ともとれる内容を涙声で切々と訴える霊夢。
それを聞いた紫はいよいよ愉快そうに笑い出す。
「うっふふふ♥　はいはい、分かったわ……博麗霊夢のチンポ管理者として♥　先汁とろとろ恥ずかしチンポをお口で保護して、賢者になるまで導いてあげる……♥」
「あっ、あっ、あァァァァーっ♥　紫ィィィィィーっ♥」
霊夢が歓喜の雄叫びをあげるのと、紫の艶めかしい唇が霊夢の亀頭をぬっぽりと咥えこむのは、ほぼ同時であった。
「ぬぼぶぶぶぶぶぶぶぶじゅるるるうううっ♥　ぬじゅるるうううっ、じゅるるるっ、ぶぼぶぶじゅるるるうううっ♥」
「おおおおおおっほおおおおおおおおおおっ♥　開幕バキュームフェラぁぁぁっ♥　ほっ、ほっ、おほっ、ほひっ♥　こっこっこれこれこれっ、これ気持ち良すぎぃっ♥　おっおっおっ、あぁいいいいいいきなり凄いっ♥　凄いのっ♥　凄いいいっ♥　あぁッ♥　紫の顔が歪んで、お口の中に私のチンマラ吸い込まれてェェェェェ♥　あはぁぁぁーっ♥　ちんぽひいいいっ♥」
「ちゅぼっ、ちゅぼぼぼっ、ぶじゅぼっ、ずぼぼぼぼぼぼぉぉぉっ♥」

「おほおおぉぉっ♥　お顔ピストンっ、　お顔ピストンっ♥　唇に裏筋扱かれまくってへえぇぇぇっ♥　強制的にイクッ、イカされちゃうううぅぅ♥　問答無用の口マンコ責めでっ♥　紫にいきなりチン汁搾られるうううぅぅっ♥　おっ、　おほっ、　ほおっ、　おおぉぉぉぉ♥　焦らしまくっていたくせに、紫、即座に本気搾精フェラチオしてくるんだからぁぁぁぁぁっ♥　ずるいいっ♥　おっ、　おおおっ、　おほっ、　おおっ、　ダメっ、　オチンポっ、　イグっ、　ビン立ちボッキ、　熱く燃え上がってイクうううぅぅぅぅっ♥　紫のお口に青い性を吹ちまけちゃうっ♥　未成熟少女ボディの成熟キンタマからっ、濃いい精子出るのっ、出るっ、あぁぁぁぁぁぁっ♥　精子出るっ、　精子イグっ♥　んひぃぃぃぃぃっ♥　射精イイイイっ♥　いいいいっ♥　チンポおおぉぉっ、　どびぼびゅるるうううぅぅぅっ！　ぶっびびゅるるうううっ、　びゅ！　ぼびゅるうぅぅっ！

腰を大きく仰け反らせて快感に咽びながら、霊夢は絶叫とともに射精した。

「ずぶるるるっ、　ぶじゅるうぅぅ、　ずるっ、　じゅるるうぅぅ、　ぶじゅるうぅぅ♥　んずるるる～っ♥」

音が外に漏れ聞こえるほど盛大で勢いづいた射精であったはずだが、　紫はそれを平然と受け止め、　眼を閉じたまま、　エレガントにさえ感じられる仕草で肉根を啜った。

「ふうぅぅぅ―っ、　うふうぅぅ―っ、　ふうぅぅぅっ、　はぁぁぁっ、　あはっ、　はぁぁぁぁ―っ♥　出した、　出したぁぁぁ♥　あっひぃぃ♥　朝一射精、　搾り取られちゃったわぁぁぁぁ……♥」

「御馳走様でしたわ。　うぅ～ん、　喉に絡みつくギトギト精子汁♥　博麗霊夢の濃厚ミルク、　本日も味わい深くてまろやかで……美味でしたわ♥　美容と健康にとっても効きそう♥　売り物にしたら好事家に高く売れるかもしれないわよ♥」

「いいやよそんなの……あんた以外に飲ませる予定なんてないもん」

「あ、　あら♥」

霊夢の一途な発言に、紫も虚を突かれ、　ガラでもなく照れてしまった。

「と、と、ところで霊夢？　もうこれでオチンポ満足かしら？」
照れ隠しのように話題を変える紫。　問われた霊夢は、　絶頂の余韻に目を潤ませつつも、　口をとがらせている。
「……満足してるわけないでしょ。　私が一発程度で萎えないことぐらい、　知ってるクセに……」
「ええもう身に染みて存じております わ♥」
唇についた精液の残滓を舌で舐めつつ、　紫は笑う。
「そうね、　霊夢のチンポをお慰め奉るのに最適な方法を一つ思いついたのだけれど……」
「な、　なによ、　勿体ぶって」
唾液に濡れた男根を反り立たせたまま、　霊夢は思わせぶりな言い方をする紫に先を促す。
「うふふ。　それをしてあげる代わりに、　私のオッ立ち妖怪チンポも……♥　霊夢のお口で♥　気持ち良くしてくれるかしら♥」
「ええ、　えええええ！」
嫌悪感をあらわにして、　霊夢の顔が歪む。
「な、　何よ。　そんな反応をされると、　ゆかりん傷ついてしまいますわ」
「だってぇ……あんたのチンポって……」
霊夢の言葉を遮るように、　紫は素早くショーツを脱ぐと、スカートからその男根をはみ出させた。　霊夢のよりも一回り大きい巨根は、　まさしく大妖怪のものとしてふさわしい貫禄があったが――
「ええ♥　ご覧の通り、　先端まで見事なまでに皮に包まれた――ド包茎ですわ♥」
「でしょう？　イヤよ、　そんなの……どうせ、　くさくてばっちいのも沢山……」
「ご名答♥　霊夢ちゃんにご馳走しようと、　八雲紫の秘蔵のチンカスっ♥　この分厚い包皮の中に、　たっぷりこってりじっくりしっかり、　こねくりもか♥　と溜め込んできておりますわ♥」
「余計なことしなくていいわよっ！　もうっ……！」
紫のふざけた言い方に、　霊夢は頬を膨らませる。
「そんな汚いの舐めたくないって言ったら、　どうするのよ？」
「どうということはありませんわ？　あら残念、　と言っておとなしく帰りますわ。　私、　善良な妖怪ですもの」
つまり、　霊夢の性欲に滾る男根は放ったらかし、　と言うわけである――どこが善良か、　と霊夢は歯噛みする。
「うううううう、　ぐうううう♥」
男根をビクンビクンと揺らして見せながら、　霊夢は懊悩する。
「単純な話ですわ、　霊夢。　私のチンカスを舐め舐めお掃除ご奉仕して、　今だ興奮冷めやらぬ巫女ポッキに未知のとてもない快楽を与えて貰うか♥　それとも断って、　私が居なくなった後、　一人淋しくシコシコセンズリしてチンポを慰めるか♥　二つに一つ♥」
「うううううう、　意地悪、　意地悪うううっ……♥」

博麗霊夢が男根快楽の誘惑に、抗えるはずがない――長い付き合いから、紫はそれを分かっているのだ。だが、霊夢の口から言わせたくて、紫はにやにやしながら霊夢の様子を見守っている。

「ふふふ、チンポ丸出しにしながら悩む霊夢を見ていると、私のチンポも硬くなりまぢわぁ♥ もっと私を悦ばせて♥」

紫にからかわれて、霊夢はキッと目を鋭くして睨み付ける。そして、観念したようにはぁーっとため息をつき、

「分かったわよっ……あんたのチンカスチンポっ、舐めてやればいいんでしょうっ！ その代わり、後からきっちり気持ち良くしてくれなくちゃ、怒るからねっ」

「ええもう、途方もない快感となることは請け合いまぢわ♥ さあさあ霊夢ちゃん♥ そうと決まれば、美味しい美味しいゆかりんのオチンポキャンディ♥ 舐めて頂戴♥」

紫は畳の上に腰を下ろし、大きく股を開いて霊夢に見せつける。

「何が、美味しいキャンディよ……そんなまぢいキャンディ、誰も舐めないわよっ」

そう憎まれ口を叩きつつも、霊夢はごくり、と生唾を飲み込んで、紫の男根の目の前に四つん這いになった。

「あはぁぁぁ～♥ さっきの霊夢じゃないけれど……チンポのそばに霊夢の可愛い顔があると、私も思いっきりチンポ興奮しまぢわぁ♥ ほらっ霊夢、舐めて頂戴、舐めて頂戴♥ 紫の穢れたオチンポ、博麗の舌技で浄化して♥」

「うぐっ、うっ……しょうがないわねっ……♥ ぴちゃっ……ぷちゅっ、んれろぉ♥」

なんぞもよ

霊夢は一瞬ためらった後、意を決して舌を伸ばし、紫の固く閉じた皮の口を解きほぐす。と、途端に、得も言われぬ風味が霊夢の味蕾を刺激する。

「おげぇぇぇぇっ♥ ま、まぢっ、ぐへぇっ♥ 吐き気がする味ぃっ♥ 濃縮不潔チンポ味っ♥ いつもよりもずっと濃いいいっ♥ 味覚がおかしくなっちゃうっ♥」

「んひいいいいい♥ 霊夢ちゃんの愛らしい舌を、私のチンカスでダメにしてしまいまぢのおっ♥ でもまだダメでぢわ、ダメでぢわ♥ もっと皮の中に舌を差し込んで、本格的にほじくりほじくり舐め舐めして頂戴♥」

「イひっ、いひゃっ、ダメっ、こんな不味いの、ダメ、無理よぉ……♥」

「ああら、博麗の巫女ともあろう者が、そんな簡単に弱音を吐いて良いのかしら♥ はあ情けない情けない、幻想郷の未来もまっくらでぢわねぇ」

紫の挑発に、霊夢の眉がぴくっと反応する。
「よくも言ってくれたわね……良いわよ、アンタのチンカスと幻想郷の未来になんの関係があるか知らないけど、そこまで言うなら、本気出してあげるわ……♥ あんたの包茎チンポは、兇悪な武器である同時に弱点だって、知ってるんだからっ……♥」
「あ、あら。ちょっとからかいすぎたかしら……」
「オおおぉぉぉっ♥ 霊夢の舌ベロッ♥ ゾリゾリゾリって容赦なく皮の隙間に入ってきたァァァっ♥ おひっ♥ おひっ♥ スキマっ♥ スキマァァ♥ チン皮スキマッ♥ 霊夢の神聖ベロに浸蝕されてまゃわァァァ―っ♥ うひいいいいっ♥ 効くぅぅぅっ♥ 効くぅぅぅっ♥」

「んげぇぇぇぇ♥ まゃ、まゃいっ♥ こんなもん、よくも人に掃除させようだなんて思うわね、この妖怪チンカス女っ♥ 私の舌先にチーズみたいなこんもり垢がこってり乗っかって、ひっ、ひいっ、臭いいいい～♥ 匂いが色づいて見えるみたいな、世界一汚いチンカスうううっ♥ 変態紫の、妖怪チンカスうううっ♥ でもそれ、ぱくっと食べちゃうっ♥ 紫のチンポカスっ、紫の見ている前で、ぢ、ぢぢぢぢ、ぢっくんしちゃうっ♥ んむぐうううううっ♥ まゃいいいいっ♥ 胃がムカムカしてくる、えぐいまっ♥ チンポまっ♥ ゆかりまいいいっ♥」
「そう言いつつも、味わいながらごっくんして♥ 絡りゃにチンカスを舌先でしっかり削ぎ取ってくれる霊夢は良い子良い子ねえ♥ あひひひひっ♥ 生亀頭にざらざらの舌っ、刺激的なのおおぉぉっ♥ チンカスカバー剥がされて、ゆかりんの軟弱エロ生亀頭剥き出しになっちゃうっ♥ おっほほほおおぉぉぉっ♥ 気持ちいいいいいっ♥」
「ほら、もっとチンカスあるんでしょう♥ あんたの言うとおりに綺麗にしてあげるから、よこしなさいよっ♥」

「くふうぅぅぅっ♥　いやぁん何よこのチンカス中毒巫女ォォ♥
半ムケチンポをちゅぽるんっと咥えて、カリ首の方まで舌
先で舐め舐めェェェ♥　私のチンカス、癖になっちゃったァ？…
癖になる味かしらッ♥　貧乏巫女の霊夢には味わい難い珍味
なのかしらァァっ♥　いいわよ、いいわよっ♥　霊夢ちゃんのお
口、私のチンカス味で埋め尽くしてあげるっ♥　私の小汚い
ぎとぎとチンポチーズで、霊夢に餌付けしてあげるわぁぁぁぁぁっ♥」

「ちょ、調子に乗らないでよおっ、誰がこんな不味いものおぉぉ♥」
と言いつつも、霊夢は夢中になって舌を伸ばし、紫の亀頭
を涎でテカテカにしながら舐め回している。
「はぁぁぁぁぁ♥　えっぐい♥　えっぐい♥　エグ味の凝り固
まったような腐りチンカスうぅぅぅぅ♥　むべえええぇ♥　必死に
なって舐め舐めしちゃう、八雲紫の熟チンポの不潔なカス、
頑張って綺麗にしちゃうぅぅぅぅ♥　私博麗の巫女なのにっ、
妖怪チンポ舐めさせられてるぅぅぅっ♥　ふっ、ふっ、むふっ、
むふっ、むふっふぅぅぅぅーっ♥」

「おほっ、オオォォォっ♥　凄いわ凄いいいいい♥　ゆかりん
の不潔チーズまみれオチンポ、どんどん清められていくわぁぁぁぁっ♥
博麗の巫女に封魔されちゃう♥　チンポ浄化されちゃうぅっ♥
素敵素敵素敵素敵ィィィ素敵ッ♥　霊夢の舌が這い回るたび
にチンポから凄いビリビリ快感伝わってくるのっ♥　ほっ、お
おぉぉ、オ、オ、ヒイィっ♥　そんなカリ首の奥まで丹念にレロ
ペロ♥　レロペロってェェ♥　少女にあるまじき舌遣い素敵
過ぎッ♥　んくうぅぅぅぅ～～凄いッ♥　最高ッ、最高よ♥
おほっ、おほっ、おほほほほほほぉっ♥　開チン巫女リフレ最
高に気持ちいいいいいい～っ♥」
「ほらっ、あんたのチンポの生ゴミチーズ、綺麗に舐め尽く
してやったわよっ……これで、いいでしょうっ……♥」
「あぁひ、あひっ、ホヒイィィィ♥　私の頑固な茎チンポぉ♥
霊夢の涎でテカテカな、ズル剥けボッキンキンにして貰い
ましたわァァ……♥　ん、んふふっ、清潔っ♥　清潔ちゅるちゅ
るオチンポっ♥　興奮致しますわぁぁぁ～♥　むっふぅぅぅぅ～ん♥
ゆかりんオチンポご満悦ぅ♥　霊夢、ご奉仕お疲れ様♥」
「うぇぇ……まだ口のなかイガイガして気持ち悪い……口の
なかえぐいチンポチーズ味に占拠されてて、理性が飛んじゃい
そうっ……♥」

「うふふ、　まだ理性を飛ばすのは早いわよ？　それでは早速、頑張ってチンカス舐め舐めしてくれた霊夢に素敵なご褒美をあげちゃうわね♥　きっと気に入ってくれると思いますわ♥」

霊夢を微笑ましく見つめながら、紫は両手を前にかざして妖力を溜め始める。

すると、紫の手から飛び散った妖力は空間に小さな穴をいくつも作り、そこから――男性のものとおぼしき無骨な手が、にょきにょきと伸びてきたのであった。

「えっ、　ちょっ、　な、　何よコレっ、　妖怪ッ――？」

「違いますわ。――この手は私の管理するスキマ空間に漂う欲望――女体に触れたい女体をイカせたいと言う欲望が形となったものですの。　いわば、　欲の手ですわね」

「え？　つまり、　あんたのスケベ欲望の具現化？」
「そうでもありそうでもなく。　この欲の手は私の言うことを聞きまさが、　それぞれ別個の意志を持っていまさわ。　だから人の意志では難しい複雑怪奇な責め方が可能と――ああ、講義の時間はこれまで。　実際に味わっていただきましょう♥」
話を打ち切り、　紫は怯える霊夢に手のひらを向ける。　と、欲の手は一斉に霊夢に目がけて飛びついた。
「ひいいっ！？　ちょっ、　やめてっ！　こいつら結構力が強いのね、　あっ、　あっあああっ♥　やだああっ、　こんな格好イヤァァァっ♥」
なんでもあり

欲の手に四肢を掴まれ、霊夢は空中に浮かされて、足をM字に開いた格好を強要されてしまった。まるで、幼児が親におしっこをさせられるようなポーズだ。

「あらあ～霊夢ちゃんったら可愛い格好ね♥ シーシースタイルでザーザーをピューピューさせて貰えるのね♥」

「変なこと言わないでよおおぉぉっ♥ いくらあんたの前だからって言っても、こんな格好、恥ずかしすぎるわぁぁっ……♥」

「あら、体験してみれば結構気に入るかもしれないわよ？ 私のチンカスぺと一緒で♥」

「ど、どっちも嫌いだもんっ♥ まだ口の中に風味が残ってるのよ、気色悪いっ……」

ぷうっと愛らしく頬を膨らませる霊夢であったが、さらなる欲の手が向かってくると、ヒッと表情を強ばらせる。

「えっ、あっ、ち、チンポっ♥ 私のビン立ち少女チンポにっ、手、手が、妖怪ハンドが来るっ♥ 紫の手と全然違う、ゴツゴツした手が、わ、私の巫女ポッキに……あぁぁぁっ、あぁぁぁぁぁぁぁぁ～っ♥」

開かれた脚の中心にそびえる男根を、二つの手のひらが挟み込む。

「ひっ♥ うひいいぃっ♥ つ、掴まれてる、掴まれてるっ、掴まれてるのッ♥ 私のオチンポがっ、両手にがっちり掴まれてるのッ♥ おっ、おおおっ、おっ、凄い、凄いっ♥ こ、これ、何されちゃうのっ♥ 何されちゃうのかしらっ、私っ、ひっ、ひあっ、あはぁぁぁぁ～っ♥」

「とぼけちゃってぇ♥ 期待に顔が緩んでるわよ、霊夢♥」

「ううう♥ 分かってるけれど、でも、こんなの初めてだから、ドキドキ、ドキドキしちゃっ、あッ♥ おおおおオオぉぉぉぉ～っ♥ シコシコ来たッ♥ 両手でズッコンズッコンっ♥ 巫女チンポシゴキ来たッ♥ うっひいいいい～♥」

スゴッ♥ スゴッ♥ スゴッ♥ スゴッ♥

このセンズリ凄すぎいいいいっ♥ 男の手にゴリゴリ先汁ぐちょぐちょの霊夢マラぁぁぁぁっ♥ ぎもちっ、イイィィっ♥」扱かれて、あはっ♥ ぎもちいいっ♥ ぎもちっ、イイィィっ♥」

欲の手が上下に動いて霊夢の男根を摩擦しだすと、霊夢はあっと言う間に快楽に蕩けた顔を晒す。

「霊夢ったら、舌を出して涙をこぼしてドスケベな顔ねぇ♥」

欲の手、男の手に清らかな童貞巫女チンポをゴシゴシされて気持ちイイの？」

「気持ちいいっ、気持ちいいっ♥ これとっても気持ちいいよおおぉぉ紫いいいっ♥ あっ、おほっ、ほおおぉぉぉ♥ 身動きできなくされて、恥ずかしい格好だけれどおぉっ♥ そんな状態でチンポを扱かれると、いつもより快感強烈なのおっ♥ チンポっ、チンポムズムズが凄いいいぃ♥ チンポのことしか考えられなくなっちゃうううっ♥ あああ、あああ、あああ、ああダメへえぇぇぇ♥ 巫女タマ煮えたぎっちゃうッ♥ こんなのあっと言う間に射精しちゃうっ♥」

「うっふふふ、　博麗霊夢ともあろう者が、　情けないこと♥
でも、　これぐらいで終わりと思って貰っては困るわ？　だって
欲の手はあと何本も何本もあるんでそもの……♥」
紫が薄笑いを浮かべると、　霊夢の身体にさらに欲の手が群
がってゆく。
「えっ♥　やっ、　何ッ♥　また、　手がッ♥　うひっ、　ああ
あっ♥　服捲っちゃダメっ♥　おっぱいっ、　おっぱい見えちゃ
う……ああああ乳首ッ♥　あぁあぁぁ♥　やぁあっ、　ダメ♥
ぽっちり乳首つままれるなんて、　恥ずかしッ……♥　んひい
いいっ♥　腋の下もくすぐるなんてええええっ♥　おほっ、　ホッ、
ほおおぉおぉっ♥　チンポだけでも死にそうなほど気持ちイイの
にッ、　他の場所までされたらおかしくっ、　おかしくなるうううっ♥
ああああっ♥　キンタマッ♥　キンタマにも指先が来たァ♥
大事な大事な博麗陰陽金玉♥　コリコリってつままれてエエエッ♥
精子タンク直刺激ィィっ♥　ひっ、　ひいいい♥
おオオォォォ―っ♥　凄いッ、　絶対イクっ、　こんなのイクッ、
全身でアクメ覚えちゃうッ♥　霊夢の身体ァっ♥　紫のッ、　男
の手のおもちゃにされてええええっ♥　しゃせーっ♥　しゃせーっ♥
濃いの出してイキまくるのおおぉおぉっ♥
おッ、　はほおおぉぉぉぉぉぉぉぉっ♥」

どびゅるぶびゅるるるうううっ！　ぶっびどびゅるる
うううっ、　ぼびゅっ！　ぶびゅるうううっ！
「は～い霊夢ちゃん待望の射精タイムね～♥　びっくりするほど
いっぱい出てるわ……♥」
こんっふうううううう出てる出てる出てるうううう♥　若さに任せ
て無鉄砲にザーメン出しまくっちゃうッ♥　おっおっおっ、　ど
びゅ汁出てるどびゅ汁出てるッ、　あへッ♥　霊夢のフレッシュキ
ンタマからチン汁搾り出されるッ、　あーっ♥　あーっ♥　童
貞なのにっ、　童貞なのにいいいい♥　童貞なのにこんな強烈な
手コキされたら、　チンポダメになる、　チンポダメになるっ、
乳首コリコリ腋こしょこしょキンタマクリクリされながらチンズ
リされないと射精できないダメチンポになっちゃうううう♥
んふへへへへへぇぇーっ♥　きもちよすぎイイィィィっ♥　チンカス
掃除の代償がこんな頭が真っ白になるようなチンポアクメだな
んてっ♥　最高ッ♥　最高ッ♥　意識もザーメンも空を飛び
回っちゃうううううう―っ♥」

ところがここで、紫にとっても思いも寄らぬことが起こる――
紫の感情を敏感に察知した欲の手が、霊夢ばかりではなく紫の肉体にも襲いかかったのだ。
「なっ―?　えっ、ちょっと何よ、私の方には来なくて良いわよッ―?　いい、言うことを聞きなさいッ―!　やだ、暴走しちゃってるっ―?」
紫の潜在意識のせいか、はたまた術式の暴走か、欲の手は紫の制止を聞かずに勝手に動き出す。そして紫も為す術無く、霊夢同様に四肢を押さえつけられてしまった。
「こ、こんな、磔(はりつけ)みたいなっ、立ったままガニ股のポーズを取らされるなんてえっ♥　屈辱だわッ……まさかこんな事になるなんてっ……♥」

両手両足を掴まれ、太股を開いた卑猥な格好を強要される紫。苦々しげに顔を歪めてはいるものの、先ほど霊夢に口淫された男根は、力強く反り返って震えていた。

「あ、ああはっ♥ 私にも、霊夢と同じおうなことをされちゃうのかしらァ♥ 私のビン立ちズル剥け敏感大妖怪チンポも、ゴリッゴリにコキ抜いてくれるのかしらっ……♥」

不安半分、期待半分に薄笑いを浮かべる紫だったが――

「んひいっ♥ ドレスを乱暴に引っ張って、生チチ剥き出しにされちゃったっ♥ 霊夢と違って爆乳だから、揉みたくなるのは分かるけれどッ……あぁぁぁ♥ 鷲掴みッ♥ 揉いっ、食い込んでるっうっ……♥ それにお尻とか太股とかも撫で撫でされてええぇぇ♥ 欲求不満溜まりまくりィ♥ 大妖怪の淫乱発情ボディに、性感がどんどん高まっちゃうううぅ……♥ はっ、はひィ♥ アナルまで指先に撫でられてへえぇぇ♥ そそそーって来ちゃうッ♥ おっ、おっ……♥ おっ……♥ あ、ああああ、でもでも、でもおっ♥ 物足りないっ、物足りないいいっ……♥」

少しおかしいけれどもなんでもない日常

紫はもどかしげに苦悶の表情を浮かべ、欲の手に向かって叫ぶ。

「チンポっ、チンポおおぉおぉっ♥ チンポも触ってよおおぉっ♥ お願いだからチンポっ、ねえねえチンポおおぉぉぉ♥ どうしてチンポだけ放置するような意地悪するのおおぉぉぉっ♥ ゆかりんのムラムラポッキンポッキンチンポ、限界ィ前なのォォォ♥ 焦らされすぎて気が狂っちゃうゥッ♥ チンポ何とかして何とかしてェェェェっ♥ あっ、あっ、あーっ、もうダメ、我慢できなくて腰振っちゃう♥ ガニ股に固定されて腰だけかっくんかっくん振っちゃう、誇りを捨ててドスケベにチンポ振り振り♥ 媚び媚びチンポダンスしちゃうっ♥ ギトギトの脂キンタマを無様に揺らしてェェっ、恥かき覚悟で射精のおねだりしちゃうのおおぉぉっ♥ はぁぁぁぁ恥ずかしいけれどもポコチン限界ッ♥ エロチンポ限界ィィィっ♥ とにかくチンポチンポチンポなのよォォォーっ♥ 私も霊夢みたいにイカせてへ えぇぇぇぇぇ〜っ♥」

果たして紫の一念が通じたのかどうか――二本の欲の手が、ようやく紫の男根に纏わり付いた。
「あはぁぁぁ♥　来た来たァっ、待っていたわァぁぁぁっ♥　紫のスケベボッキしてェっ、あセンズリしてくださいましぇぇェェ♥　おうぉオォォっ♥　下からやくい上げるようにヌルテカキンタマ揉み揉みッ♥　んくひいいぃ～♥　熟成ザーメンが詰まってるスケベエッグほぐされてるうううぅぅ♥　睾丸効くゥゥ♥　キンタマ性欲が加速致しますわァァァっ♥　ほおおぉっ、　ほヒッ、　ひッ♥　そして竿扱きィィ♥　ゴッツイお手手にオンナオチンポ掴まれてッ♥　小刻みにデカマラ擦られてますのォっ♥　裏筋ゴリゴリィ♥　ぎもひいいいですわァッ♥　はあああイグっ、　ようやくイケるっ♥　ザニ股チンポでゆかりんイクッ、　デカマラ絶頂ザーメン気持ち良く搾り出すうううっ……♥」

「ん～♥」
ぐ～ぐぐぐ

なんぞもなく正常

「はあ、　ああ、　あはぁぁぁ……♥　紫ったら、　うどんみたいな濃いザーメンをびゅうびゅう壊れた噴水みたいに吹っ放してっ♥　大妖怪も形無しじゃないの♥　いい気味だわ、　自業自得ね……♥」

未だに欲の手に囚われたままの霊夢であったが、　紫の痴態を見て愉快そうに微笑む。

「あ、　あはっ、　あへっ、　はへぇ♥　あ、　あらあら、――そう――るおつな真似はせず、　霊夢の足を一旦床に降ろす。

いつ霊夢ちゃんこそ、――私の艶姿を見てまた性欲もなく淫乱オチンポボッキしてるのではないでしょうこと？　そんなザマでは、また欲の手にハードセンズリコキされてしまいますわよ♥　霊夢チンポに執拗なまでにオス手コキセンズリアクメ感覚を仕込まれてしまいますわよ……♥」

「だっ、　ううぅぅ、　言わないでよおぉ♥　そんなこと言われたら、　本当にまたチンポが、あっ、あっ、あっ、あっ、アー――……♥」

紫に指摘されて、　一度は力を失っていた霊夢の男根が、見る間に再び硬くなってゆく。　自分が勃起するまでのプロセスをつぶさに観察された霊夢は、　恥ずかしそうな声を上げた。

しかし霊夢の周りを漂う欲の手は――今度は直接男根を触

「あ、　あら？」

「あらまあ♥　これはきっと、　一日ポーズを変えてシコられちゃうのですわ♥　霊夢ちゃんったら今度はどんなポーズかしら、私と同じ下品なガニ股？　それともエロ蹲踞かしら♥　楽しみね～♥」

「ひあァァ♥　そんな色んな格好で射精する楽しみなんか、　教えられたくないわっ……♥　私、　まるまる変態になっちゃうじゃないのっ……ああ、　でも勃起っ♥　新しい下品なセンズリ快感期待して、　博麗少女オチンポのボッキ止まらないいいっ……♥」

それぞれに期待して胸を高鳴らせる二人。

しかし欲の手は、二人にとって思いも寄らぬ行動に出る――

まず紫の両足を持ち上げて宙に浮かせる。

そして霊夢を紫の正面に移動させ、そのまま霊夢の身体を前進させて――

「えっ？　あっ、あらっ、これはっ……♥」

「ひいっ♥　あっ、ちょっと待って、このままじゃあっ♥」

そして、霊夢の男根の先端が、ちょうど紫の女陰に触れたとき、二人の疑惑は確信に変わる。

「あああ♥　セックスうううっ♥　セックスしちゃうっ♥　紫のオマンコにチンポハマっちゃうううっ♥　私の童貞っ♥　欲の手に捨てさせられちゃうっ♥　紫マンコとセックスさせられるうううっ♥」

「ひィィィっイヤよイヤっ、イヤぁぁぁっ♥　霊夢の童貞はしかるべき時節を見計らって奪ってあげる予定だったのにっ、こんな、私の意志を無視してセックスさせられちゃうの、イヤぁぁぁっ♥　おっ、オ　オ　オ　オ　ォっ♥　霊夢チンポおおぉっ♥　チンポ当てられてるとオマンコが自動的に甘疼きし始めちゃって、ああっ、ァァァ♥　チンポ来ちゃう、ダメ、ダメって入って来ちゃ、うううううう～っ♥」

「あああはっ、はっ、あ～っ♥　入っ、ちゃっ、たァ……♥　すごっ……あはぁぁぁぁ♥　これがマンコの感触っ♥　ああ、あったかぁい……♥　やわらかぁぁぁいっ……♥　ひいい紫いいいっ、紫いいいっ♥　私、紫とセックスしちゃったぁぁぁっ♥　セックスっ♥　セックスっ♥　おセックスうううっはあああァァァっ♥　童貞喪失うううっ♥」

「おおおぉぉぉっ♥ イヤなのに、イヤなのにいっ、身体が反応しちゃうううっ♥ 霊夢の若々しいチンポっ、凄いいっ♥
はっ、ああっ、はひいいいっ♥ 新品チンポがゆかりんの中古マンコに突き刺さってるのっ♥ あっはぁぁぁ♥ こんなのレイプっ♥ レイプよおおぉっ♥ 私の妖怪メス穴っ、博麗の巫女にレイプ退治されちゃうっ♥ くひいいいっ♥」
「あっ、あぁぁぁっ、あっ、紫っ、紫ッ♥ 紫の中、とろとろで気持ち良くってッ♥ 我慢できない、チンポ我慢できないわぁっ♥ んっ、おっ、オホッ♥ オホッ♥」
「へっ、はへぇっ♥ ちょ、ちょっと霊夢、なんで腰振ってるのよおおぉっ♥ 欲の手に無理矢理セックスさせられてると思ったら、霊夢ったら自分から進んで、おっ、おおぉぉぉっ♥
私のオマンコ犯してるううううっ♥」
「だってえだってえっ、気持ちいいんだもんっ♥ 身体はしっかりセックス状態に固定されて、腰をヘコヘコスケベに振るだけで気持ちいいのッ、本能丸出しで恥ずかしい腰フリピストンしちゃうううっ♥ チンピスっ♥ チンピスっ♥ 童貞セックスぎもちいいいいっ♥ もう分かんない分かんないっ、気持ち良すぎて夢中で腰フリキメちゃうっ♥ あぁぁぁぁ、チンポおおぉっ、ねっねっ、紫っ、チンポおおぉぉ〜っ♥」
「ひっ、そんな愛らしい顔してチンポつっこまれたら、ハ雲紫は全ての快感受け入れちゃうううっ♥ それはそれはトスケベな話でやわッ♥
はあっ、あはっ、アァァァ♥ 妖怪の賢者のとろッとろビッチマンコっ♥ 可愛い可愛い霊夢ちゃんに必死でパコられてえええっ♥ おっ、おおっ、オッ、ほぉぉぉぉぉーっ♥
空中で開脚オマンコ広げチンポウェルカム状態のセックス便器ポーズでっ、あっちりキンタマぶら下げて、卑しいデカチンを真っ直ぐ立たせた欲求不満変態ポーズでっ♥
はあぁぁぁぁっ、感じるッ、感じるううううっ♥」
なんかれい、なんでもな

「はぁぁぁぁぁぁぁっ♥　紫のオマンコがぎゅうって締まってぇぇぇぇ……♥　おふっ♥　そんな肉の中をガチンポで掻き分け掻き分け突っ込み突っ込みしまくるの最高に気持ちいいわぁぁっ♥　このむちむち妖怪マンコホール、いつまでもチンズコしていたくなるわぁっ♥　ああっ、はぁぁ♥　調子に乗っちゃうッ♥　チンポ調子に乗っちゃうッ♥　キンタマバカみたいに波るん波るんゆらしながらパコパコ♥　パコパコ♥　童貞丸出しがつき腰ブリで紫をイカせるうっ♥　調子に乗りまくり童貞チンポガチハメでっ♥　紫をイカせてあげちゃうわぁぁぁっ♥」

「あっ、ああぁぁぁぁっ♥　子宮が降りてきてッ……霊夢のチン先にコツンコツンノックされてるッ♥　はひいいっ♥　娘みたいに妹みたいに思ってた子からマジセックス喰らってメス堕ちしちゃうっ♥　ゆかりんっ、ただのオマンコメスになっちゃうっ、霊夢のためのオマンコメス穴妖怪になるうぅぅぅ～っ♥　イカされるっ、セックスでイッちゃうっ♥」

「あっ、ああっ、はあぁぁ、イクッ、イクッ♥　紫の子宮に種付けェェェ♥　無駄打ちぴっかりだった童貞チンポで、紫相手に孕ませセックスしちゃってるうぅぅっ♥　はあぁぁチンポ凄い、チンポ素敵いいっ♥　紫っ、紫っ、ほおっ♥　全身全霊で射精しちゃうっ、私の全部を紫に注ぐッ♥　んひイいいいっ、童貞喪失金玉汁出る出る出るうぅぅぅっ♥　ああぁぁぁぁイッグうぅぅぅぅぅぅ～っ♥」

「おおおぉぉぉぉっ♥　私もイクイクイクッ♥　ひいいぃイ凄いいいいっ♥　欲の手に固定されて霊夢チンポにガン突きされてっ、　頭ぶっ飛ぶようなアクメ来るうううぅぅぅ～っ♥　陥落っ、　陥落うううっ、　大妖怪八雲紫が博麗の巫女にラブセックスマンコ退治されて陥落するのほおおぉぉぉぉぉぉっ♥　あっ、　イグイグイグイグっ、　私もチンポイッちゃうううっ♥　マンコ突かれてチンポイクッ♥　キンタマからあ汁溢れてオチンポイッちゃうううっ、　ひィィィっ♥　この私が、　ノータッチでチンポイカされるなんてええええっ♥　ひいいいいっ、　こんなの初めてェっ♥　オスメスの境界おかしくなっちゃうっ、　でも霊夢になら良いわっ、　とどめ刺してっ、　オスメス両方アクメさせてェっ♥　ドスケベ変態ゆかりんの子宮に、　とどめの霊撃ぶちかましてェェェェ～っ♥」

どっぽびゅるるるうううっ！　びゅびゅびゅるるうっ、　どぴゅっ！
びゅるびゅるっ、　どびびゅるるうううーっ！

二人の男根から、　同時に濁流が噴き上がる。　片方は紫の子宮へ、　もう片方は霊夢の身体に、　呆れるほど大量に注がれた。

「あ♥　あああ♥　あああ♥　あはぁあぁぁぁ♥　気持ちっ、いいいいっ♥　あへっ♥　あぁぁぁあ射精ッ♥　射精あへぇ♥　チンハメセックスで射精するのッ、　最高に気持ちいいっ♥　気分爽快ッ♥　チンポ凄いっ、　チンポおおぉっ♥　オチンポアクメがハーレぇっ♥　オチンポアクメがルナティックうううっ♥　キンタマの中身が全部抜け出ちゃうのぉっ、　はへぇえぇ♥　あ、　あぁぁぁ♥　紫相手に種付け、　種付けェェ♥　汗だくで腰を振り回して童貞卒業孕ませセックスぎもちよおがっだぁぁぁ♥　マンコにチンポ杭固定していつまでもびゅるびゅるだらしなく精汁放出し続けたいわぁぁぁ♥」

「おおお、ほォ〜っ……♥　あっちゃいの出されてへえぇぇ……♥
あっちゃいの出してへえぇぇ……♥　セックス凄いいいぃ♥
イキすぎて生と死の境界壊れちゃうぅぅぅ……♥　博麗
セックス凄かったわぁぁぁぁ♥　ああっ、　あはっ、　まだ体
ゆがイッてるっ♥　あぁぁ、　私が、　私がアクメ漬けにされちゃっ
たあぁぁぁ♥　ゆかりんの悩ましムチムチボディ、　霊夢のチ
ンポで絶頂漬けにされちゃったのおぉぉ♥
おおぉぉ、　おほおおぉぉ♥　んひっ、　ふひひぃ……♥」

二人は蕩けた顔のまま見つめ合って、微動だにしないまま強烈な
ぎる快感の余韻を味わっていた。そして、二人を押さえつけ
ていた欲の手は、欲望が昇華され消失したのを確認したか、
繋がったままの二人を畳に降ろし、一つ、また一つと隙間空
間へ消えてゆく。
だが二人は最早欲の手の存在など気にも留めていないよう
で、何の反応もしなかった。
ただ朦朧とする意識の中で、巨大な絶頂の波が過ぎ
去るのを待ち――
「ほっ、おおぉ、おほおおぉぉぉぉぉ～♥ 満足ううぅ♥」
チンポ満足したわぁぁぁ♥」
やりきった表情を浮かべながら、霊夢はゆっくりと腰を引
き、紫の中から男根を引き抜く。
「ひ、いぃぃぃ♥ カリ首が擦れ、へェェェっ♥ あ～っ♥」
「おほっ、おッ♥ チンポ抜いた刺激でまだチンポ汁出るっ、
ラストスペルマ出ちゃうッ、ほひっ、おおおぉぉ♥ おォォォっ
♥ 紫の身体にぴゅうぴゅう意地汚く出そううぅ♥」
それだけの刺激で、二人はガクンガクンと身体を揺らして
軽く達してしまう。
「あ～っイキ癖付いてしまいましたわ……♥ さ、凄かったで
さわぁぁ……♥ こんなに元気な精子を容赦なく子宮底に叩
きつけられてへェェェ……♥ 本気で霊夢の子を孕んでしまい
まさわっ……おおぉぉぉ♥ オマンコ全体が、まだ痺れている
かのよう……うっ、ふひいいいい……♥」
ぽっかりと開きっぱなしになった女陰からは、ドクドクと霊
夢が放った精液がこぼれている。
「はあぁぁ……♥ 我ながら、びっくりするほど射精しちゃっ
たわ……♥ まさか、紫とセックスしちゃうなんてね……♥」
「もっと霊夢が成長してから筆降ろしてあげようと思ってたの
に、まさか欲の手が暴走するなんてェ……迂闊だったわぁ……
♥」
「自業自得じゃないの。自分の呼び出した使い魔みたいなのに
自分が襲われちゃ世話は無いわね……」
「はへェェェェ……♥ 面目次第もありませんわ～♥」
焦点が合っていない絶頂顔で、霊夢の嫌味に応える紫。
しかし、少し呼吸を整えてから表情をいつもの胡散臭い微
笑みに戻すと、霊夢の瞳をまじまじと覗き込んで問いかける。

「でも、霊夢……♥ さすがに童貞を奪ってしまったのは想
定外だったけれど……とってもとっても、気持ち良かっただでしょ
う？」
「う、ぐ、く。ま、まあ、それは、ね？」
答えに窮してそっぽを向く霊夢。
「それなら良かったわ♥ また霊夢ちゃんがオチンポムラムラし
たら、してあげる……♥」
そう言って紫は霊夢に抱きついて、長い舌を伸ばして頬に付
いた精液を舐め取る。
「こ、こらっ、くっつくな！ ザーメンでぐちょぐちょなんだ
からっ」
「そんなの今更じゃないの。ほらほら、お洋服をぽいぽいして、
一緒にお風呂に入りましょう♥ 霊夢と洗いっこしたいわ～♥」
「あんたの場合、洗いっこだけじゃ済まないじゃないの……」
「あら分かる～？ それなら話は早いわ、スキマ空間を通っ
てお風呂に連れて行くわね♥」
ジト目で睨んでくる霊夢の身体を、有無を言わさず抱き
上げる紫。
「わあっ、ばかっ！ 了承したって意味じゃないわよっ、も
うっ！」
わたわたと暴れるものの、霊夢にも本気で抵抗しようという
意志は無いようで――
二人はいつも通りに仲が良く。
今日も博麗神社には何の異変も起こらなかった。

（終わり）

ゆかれいむのなんでもない日常

テキスト　火田
イラスト　みさくらなんこう

おまけ
アリスちゃんのなんでもない日常

ああああムラムラする、 ムラムラする、 今日はやたらと股間が疼くわね……♥
クールで清楚な正当派お姉ちゃん、 幻想郷の可愛い担当とか言われてる私だけれど、 どうしても性欲は溜まっちゃうのっ……♥
ふっ、 うううっ、 オホッ♥ が、 我慢できないっ、 ちっ、ちちちち、 チンポォっ♥ チンポに性欲が溜まってるぅぅぅーっ♥ メスタマてかてかぎっしりっ♥ 肉棒ギンギンギンギンに漲ってるのーっ♥ オナニーするっ、 オナニーしちゃうっ♥ チンポオナニーせずにはいられないわっ♥
はぁあぁぁ～あはぁっ、 はあぁ、 あはぁあぁぁ～♥ 取り出しましたるこのオナホールっ♥ 貫通式オナホ♥ 秘蔵していた新品のオナホ♥ アリスちゃんの苛々チンチンを鎮めるために、使っちゃうわねっ♥ オナホ処女をぉ……美少女アリスちゃんの童貞ぴかぴかチンポでぇぇっ♥ 奪っちゃうぅぅ♥
それじゃあ早速、 ベッドに座ってオナホを目の前に構えて……ふっ、 むふっ、 むふひゅふふふふっ♥ 興奮しちゃう、新品オナホ使う瞬間ってとってもドキワク♥ オチンポが凄い勢いで痙攣してるうううっ♥
アリスのザチポッキチンポでオナホ壊す勢いでマジハメしていかしらっ？ いーいっ？ いーいっ？ いいわねっ♥ やったあっ♥
おっほッオラァっいきなり奥までガン突きいいいっ♥ んふ、んひ、 んふ、 ふひゅうううっ♥ 貫通式終了ッ♥ つるぷにラブリー亀頭がオナホの反対側からこんにちわっ♥ おおっ、おほぉっ、 新品マンコを中古マンコに作り替えるのぎンもひイいいいいっ♥ 下品な声出ちゃうううう～♥
あああああ～セックスセックスセックスうううう～♥ オナホ相手のセックスぎもちいいいよおおっ♥ お外で人形劇やったり、魔法の研究したりも良いけれど、 今日は一日オナニーっ♥
オナニーっ♥ オナホセンズリっ♥ チンポいじりして過ごすのおおぉっ♥ 両手で乱暴にズコズコチンズコっ♥ 腰をくねくねっ♥ ケツフリィっ♥ はぁあぁぁオチンポ気持ち良い♥ 美少女愛欲チンポ気持ち良い♥ チンポ感覚満たされるわァァっ♥

オナホレイプっ♥ オナホレイプしてるうううう～っ♥ 童貞チンポでオナホレイプハメ素敵素敵っ♥ とっても素敵なのぉっ♥ かわいいかわいいみんなのアイドルアリスちゃんが、 オナホ相手に必死で腰フリっ、 無様にオナニー腰フリ、 ケダモノみたいにオナホマンコレイプ腰振りまくっちゃうううううっ♥ んへっ、 はへっ♥ 恥ずかし気持ちいいいっ♥
むふっ、 うふっ、 イグっ♥ もうイグっ♥ アリスちゃんの童貞早漏チンポイッグうううっ♥ おほっ、 おおおほっ♥ ふわふわのベッドの上でぇ♥ 上海人形に見守られながらァ♥ 貫通オナホをじゅっぽじゅっぽしてええ♥ オス臭い変態性欲ザーメン出しちゃうううううう～っ♥

どっぽびゅるるるるるうっ、 びゅくびゅるっ、 ぼびゅるっ！
びびっ、 びゅうううっ！

あああああぁぁぁぁ～っ♥ はぁあぁっ、 ああ、 あっは、 ァァ♥ マーガトロイドのとろとろマーガリンザーメン出てるううううううう～っ出てるっ♥ オナホはみ出しチン先からびゅうっ、びゅうっ♥ 愛らしい白汁りキンタマ、 キュンキュンしてるのっ♥ 私女の子なのにっ、 オス汁汁っ放すの気持ちいいのおおぉっ♥ あへっ、 あへっ、 はへえええ～っ♥ 終わってるうぅ♥ オスチンポコキ大好きすぎて、 私女の子として終わってるぅっ♥
おほひいいいっ……♥ あはっ、 はあぁぁぁ♥ は～♥ はへっ、 へえぇぁぁ♥ おッ♥ 余韻でアクメ汁り返すッ♥ おッ出るっ♥ おッ出るっ♥ おほっ、 ほほっ、 ほひひぃ～っ……♥

ん、 ふうっ、 少し落ち着いたわ。 ちょっと乱れすぎちゃったわね、 恥ずかしい……いつものアリスに戻りましょう。 さて、と……次はどのオナホを使おうかしら。

（終わり）

にゃわあああ ああああ

もう朝になっちゃうよ!!!!

こんな時間まで起きてることがもう
ないよねぇ!!

トシなのか!?

初例大祭 がはげしいことに
なっちゃってるけど

本つくれてよかった

見てくれたあなたへ
ありがとうございます☆

キラッ

水田さんと
ゲームつくってます!
はげしいのぜ!!
みてね

なんこ

Hart Nir

AmBiVaLenZ

原画：みさくらなんこつ
シナリオ：火田（AmBiVaLenZ!）

ふたなり♥アイドル

ぴかたま☆

～私たちのえっちな「フルーツ」いっぱい撮ってね♥～

豪華スタッフで送る
ド変態タマゲー登場！

白鳥沢みずほ
リコとアイドルユニット「スウィートフルーツ」を結成、おっとりとしたキャラクターは、お嬢様育ちの天然もの。リコにいじめと称したセクハラを受けることでチンポの快感に目覚めていく。
CV：ひむろゆり

松崎リコ
ファッション誌の人気読者モデルだったが、アイドル事務所から熱烈なラブコールを受けアイドルに。陰で努力を怠らないがんばりやさんだけど、ストレスはその巨タマにたまっていく…！
CV：サトウユキ

2013年夏発売!!

ゆかいなもの なんでもない日常

2013年5月26日　初版
2013年6月4日　第二版発行
発行　ハースニール

印刷：ニモ印刷様

http://www.harthnir.com/
koguma@harthnir.com

18歳未満の方の購読を禁じます
無断転載を禁じます